

# 事業報告書

(平成27年度)

社会福祉法人 川崎聖風福社会

# 目

# 次

## 1 社会福祉法人 川崎聖風福祉会 理事会・評議員会の開催

### 第一回評議員会 平成 27 年 5 月 26 日(火)

- ① 定款の改定について
- ② 組織及び職制に関する規程の改定について
- ③ 特別職就業規則改定について
- ④ 経理規程の改定について
- ⑤ 救護施設管理規則の改定について
- ⑥ 公印規程の改定について
- ⑦ 就業規則細則の改定について
- ⑧ 給与規定の改定について
- ⑨ 旅費規程の改定について
- ⑩ パートタイマー職員就業規則の改定について
- ⑪ 平成 26 年度第 3 次補正予算（案）について
- ⑫ 平成 26 年度事業報告について
- ⑬ 平成 26 年度収支決算について
- ⑭ 平成 27 年度第 1 次補正予算（案）について
- ⑮ 報告事項
  - (1) 盗難車両のその後の経過
  - (2) 法人、施設監査報告
  - (3) 田島施設の進捗状況

### 第一回理事会 平成 27 年 5 月 26 日(火)

- ① 定款の改定について
- ② 組織及び職制に関する規程の改定について
- ③ 特別職就業規則改定について
- ④ 経理規程の改定について
- ⑤ 救護施設管理規則の改定について
- ⑥ 公印規程の改定について
- ⑦ 就業規則細則の改定について
- ⑧ 給与規定の改定について
- ⑨ 旅費規程の改定について
- ⑩ パートタイマー職員就業規則の改定について
- ⑪ 平成 26 年度第 3 次補正予算（案）について
- ⑫ 平成 26 年度事業報告について
- ⑬ 平成 26 年度収支決算について

- ⑭ 平成 27 年度第 1 次補正予算（案）について
- ⑮ 報告事項
  - (1) 盗難車両のその後の経過
  - (2) 法人、施設監査報告
  - (3) 田島施設の進捗状況

第二回評議員会 平成 27 年 5 月 26 日(火)

- ① 理事の選任について

第二回理事会 平成 27 年 6 月 1 日(月)

- ① 選任された理事についての同意及び理事長選定について

第三回評議員会 平成 27 年 7 月 30 日(木)

- ① 役員の選任について
- ② 平成 27 年度第 2 次補正予算（案）について
- ③ 平成 27 年度第 3 次補正予算（案）について
- ④ 報告事項
  - (1) 田島施設と井田地域生活支援センターの進捗状況

第三回理事会 平成 27 年 7 月 30 日(木)

- ① 役員の選任について
- ② 平成 27 年度第 2 次補正予算（案）について
- ③ 平成 27 年度第 3 次補正予算（案）について
- ④ 報告事項
  - (1) 田島施設と井田地域生活支援センターの進捗状況

第四回評議員会 平成 27 年 11 月 27 日(金)

- ① 定款の改定について
- ② 特定個人情報等に関する基本方針と取扱規程の制定について
- ③ 冬季賞与の支給について
- ④ 上半期事業報告について
- ⑤ 上半期収支報告について
- ⑥ 報告事項
  - (1) 川崎市恵楽園指定管理の選定結果について
  - (2) 田島施設の進捗状況
  - (3) 井田地域生活支援センターの進捗状況
  - (4) 聖風ホーム 5、6 号館の開設

第四回理事会 平成 27 年 11 月 27 日(金)

- ① 定款の改定について
- ② 特定個人情報等に関する基本方針と取扱規程の制定について
- ③ 冬季賞与の支給について
- ④ 上半期事業報告について
- ⑤ 上半期収支報告について
- ⑥ 報告事項
  - (1) 川崎市恵楽園指定管理の選定結果について
  - (2) 田島施設の進捗状況
  - (3) 井田地域生活支援センターの進捗状況
  - (4) 聖風ホーム 5、6 号館の開設

第五回評議員会 平成 28 年 3 月 14 日(月)

- ① 定款の改定について
- ② 組織及び職制に関する規程の改訂について
- ③ 公印規程の改定について
- ④ 正規職員就業規則の改定について
- ⑤ 給与規定の改定について
- ⑥ 契約職員就業規則の改定について
- ⑦ パートタイマー職員就業規則の改定について
- ⑧ 就業規則細則の改定について
- ⑨ 第 4 次三か年実行計画（案）について
- ⑩ 平成 27 年度第 4 次補正予算（案）について
- ⑪ 平成 28 年度事業計画（案）について
- ⑫ 平成 28 年度予算（案）について
- ⑬ 平成 28 年度管理職職員の配置について
- ⑭ 報告事項
  - (1) かわさき障害者福祉施設たじまの開設
  - (2) 井田地域生活支援センターはるかぜの開設
  - (3) 聖風ホーム 3 号館の閉鎖

第五回理事会 平成 28 年 3 月 14 日(月)

- ① 定款の改定について
- ② 組織及び職制に関する規程の改訂について
- ③ 公印規程の改定について
- ④ 正規職員就業規則の改定について
- ⑤ 給与規定の改定について
- ⑥ 契約職員就業規則の改定について
- ⑦ パートタイマー職員就業規則の改定について
- ⑧ 就業規則細則の改定について

- ⑨ 第4次三か年実行計画（案）について
- ⑩ 平成27年度第4次補正予算（案）について
- ⑪ 平成28年度事業計画（案）について
- ⑫ 平成28年度予算（案）について
- ⑬ 平成28年度管理職職員の配置について
- ⑭ 報告事項
  - (1) かわさき障害者福祉施設たじまの開設
  - (2) 井田地域生活支援センターはるかぜの開設
  - (3) 聖風ホーム3号館の閉鎖

## 2 法人の事業運営について

- ① 法人全体としての重点事項・目標事項の取り組み
  - (1) 本法人の基本的な事業運営理念である「ご利用者お一人おひとりが、健康で明るく楽しい時間を過ごすことを通して、自分らしい豊かな生活(人生)を送ること」ができるよう、全事業所においてご利用者ご家族のご意見や思いを大切にしながら、お一人おひとりにそった個別的なサービスや支援の提供を常に心がけて運営を行ってまいりました。
  - (2) 全事業所が事業運営理念に基づき総合的なサービスの向上を図るためまた、施設整備等について具体的な展開として「第3次3ヵ年実行計画」に基づき運営をしてまいりました
  - (3) 平成26年度、井田地域生活支援センターの指定管理受託を受け、平成28年度の開設に向け準備を行いました。
  - (4) 平成28年度4月の開設に向けて、田島準備室と協力し開設準備を行ってまいりました。
  - (4) マイナンバー制度施行により番号の収集及び環境面の整備、正規職員就業規則、契約職員就業規則、パートタイマー就業規則の改定を行い、職員の労務環境を整えました。
  - (5) 川崎市恵楽園第3次指定管理受託に向け、資料の作成及び恵楽園職員の向上に向けた研修等を企画いたしました
  - (6) 全事業所が事業運営理念に基づき総合的なサービスの向上を図るため「第4次3ヵ年実行計画」を策定いたしました。

### 3 会議報告

#### ① 経営会議

経営会議は法人管理職による会議で主に事業経営上の諸問題の点検・確認を行い、また、人事等を含めて円滑な施設経営に努めるための計画、戦略などを協議しました。

具体的には職員の処遇や制度の整備として就業規則（正規職員・契約職員・パートタイマー職員）の改定、人材育成に係わる研修並びに研究発表大会開催等を協議決定しております。また、理事会・評議員会の議案事項の確認修正や財務状況の確認・協議を行いました。

事業所の整備として田島施設・井田地域生活支援センター開設に向けての準備進捗状況の確認や既存施設の安定的な法人、施設経営に努めました。

<会議開催日>

4月16日、5月21日、6月18日、7月16日、8月20日、9月24日  
11月19日、12月17日、1月7日、2月18日、3月3日

#### ② 所長会議

所長会議は各事業所、施設の運営上の責任者の会議で、各部会や各部署の連絡調整や日常の問題など議論し決定する会議として位置づけています。

毎月の定例会議で経営会議の連絡事項、決定事項の伝達や各事業所並びに各委員会の事業報告、次月予定報告など全職員へ周知を図りました。

また事業所数の拡大により、他事業所での出来事・情報を共有することで、連携した支援ができるよう図っております。

<会議開催日>

4月23日、5月28日、6月25日、7月23日、8月27日、9月24日  
10月22日、11月26日、12月24日、1月21日、2月25日、3月25日

#### ③ 研修委員会

法人研修委員会は、法人職員の研修方針と計画の策定を以下の目的を主旨に実施しました。

##### (1) 目的

法人の経営理念、経営方針を理解し、その実現化を推進し、業務を通じて組織、社会に貢献できる人材養成を目的に、各研修内容の検討と企画、実施をしました、

##### (2) 研修委員会開催状況及び会議内容 全12回 委員7名

回	年 月 日	主な内容
1	平成 27 年 4 月 15 日 9:30~11:30	H26 年度事業報告、H27 年度計画の骨子確認、研修計画の確認、H27 年度職務対話計画
2	平成 27 年 5 月 11 日 14:30~16:30	各階層別研修のテーマと会場について 名簿の確認、役割分担
3	平成 27 年 6 月 15 日 14:30~16:30	階層別研修の具体的内容、会場申込みについて

		研究発表大会について
4	平成 27 年 7 月 10 日 14:30~16:30	階層別研修のテーマと講師について 研究発表大会のエントリーについて テキストの進捗状況と内容の確認
5	平成 27 年 8 月 17 日 9:00~11:00	階層別研修の内容、枠組み、担当、予算、準備、役割について、事例と書式について 研究発表大会の案内、エントリー書式について
6	平成 27 年 9 月 14 日 9:00~11:00	新任研修プログラム、役割の確認について 中堅職員研修の提出事例の確認 研究発表大会エントリー選抜について
7	平成 27 年 10 月 19 日 9:00~11:00	10 月 24 日新任研修の内容、段取り、役割の確認 11 月 21 日中堅研修の事例について
8	平成 27 年 11 月 5 日 9:00~11:00	10 月 24 日新任研修の振り返り、反省 11 月 21 日中堅職員研修の内容、準備の最終確認 12 月 19 日基幹職員研修の内容、出席、準備の確認 3 月 12 日研究発表大会のエントリーと発表者の確認
9	平成 27 年 12 月 15 日 9:00~11:00	12 月 19 日基幹職員研修の準備最終確認 研究発表大会までのスケジュール再確認
10	平成 28 年 1 月 18 日 9:00~11:00	12 月 19 日基幹職員研修の振り返り、反省 三か年研修計画について 研究発表大会発表内容の進捗確認 次年度職務対話について
11	平成 28 年 2 月 29 日 15:00~17:00	3 月 12 日研究発表大会の最終確認、準備(3 月 9 日)について 次年度職務対話について (要綱、書式の確認) 次年度の事業計画 (骨子) について 次年度の委員会について (重点テーマ、計画)
12	平成 28 年 3 月 17 日 9:00~11:00	3 月 12 日研究発表大会の反省、次年度に向けて 職務対話について 事業計画について

### (3) 階層別研修会

階層別研修は、①職員の業務の倫理、あり方の認識、計画的かつ適切に遂行、検証（振り返り、評価）、②専門性を高められ、個別支援、ケアマネジメントのプロセスを身につけられるように、③社会ニーズへの貢献、社会的役割を果たすリーダー養成、④目標もった資質向上を重点目標に企画し実施しました。

A 平成 27 年度新任職員研修 (契約・新任・中堅 2 年目研修)

日 時：平成 27 年 10 月 24 日 (土) 9:45~16:30

場 所：高津市民館 11 階第 4 会議室

参加者：36 名

時 間	主 題	講師・担当
9:45~9:50	研修オリエンテーション	研修委員：小林勇所長・原所長
9:50~10:00	挨拶	磯上理事長
10:00~12:00	～対人福祉サービスの姿勢～ 研修 I 「権利を守ることは」	講師：岩田香織氏 (東海大学健康科学部社会福祉学科)
12:00~13:00	昼休み	

13:00～14:30 14:30～16:00	～対人福祉サービスの姿勢～ 研修Ⅱ「相談援助の基本」 演習「相談援助の技術体験」	講師：岩田香織氏
16:00～16:30	ふりかえり・まとめ	研修委員会

B 平成27年度中堅職員研修（中堅3年目・主任1年目職員）

日 時：平成27年11月21日（土）9：45～16：30

場 所：エポック中原 7階第3会議室

参加者：48名

時 間	主 題	担当・講師
9:45～9:50	研修オリエンテーション	研修委員：田中園長
9:50～10:00	挨拶	磯上理事長
10:00～12:00	相談援助の技術 研修Ⅰ「ファシリテーションについて」 演習「担当者会議」「ケース会議」	講師：増田貢氏 あっぷるケアセンター溝口 (介護支援専門員)
12:00～13:00	昼休み	
13:00～16:00	相談援助の技術 研修Ⅱ～事例から～演習 「より良い対応のためには」	講師：増田貢氏
16:00～16:30	ふりかえり・まとめ	研修委員会

C 平成27年度基幹職員研修（主任2年目・副主査・主査・主幹職員）

日 時：平成27年12月19日（土）9：45～16：00

場 所：ミューザ川崎 1階研修室1・2

参加者：43名

時 間	主 題	担当・講師
9:45～9:50	研修オリエンテーション	研修委員：田中 準備室長
9:50～12:30	・経営について ・法人の方向性について ・事業展開について ・グループワーク 事例から支援のあり方について	磯上理事長
		出澤常務理事
12:30～13:30	昼休み	
13:30～15:30	「社会福祉法人として、事業体として求められるマネジメント」	講師：中井孝之氏 シルバーサービス振興会常務 (元厚生労働省) 研修委員：中澤事業推進部長
15:30～16:00	ふりかえり・まとめ	研修委員会

#### (4) 職務対話

前年度までの対話内容を基に、職員個々が感じていることや考えていることと、組織が求める役割などを対話にて確認し、学習機会と振り返りにより段階的に職務のスキルアップを重点に行いました。

##### A 今年度の特徴

- ・前年度の対話内容を参考にするとともに、より職員個別にあわせたキャリアパスができますように前年度の職務自己評価が向上できる目標設定を導入しました。

##### B 手法

- ・「前年度の職務対話シート」「前年度の職務自己評価」を参考に対話を通して目

標設定を確認しました。また、テキストスマイルレシピの活用も入れました。

- ・自己評価表の提出後に年度振返りの対話を行い、今年度の統括と次年度に向けての目標について対話を行いました。
- ・対話者は直近の上司である「職場係長」や「所長」とし、対話実施者がマネジメントする職員数は概ね7名程度とし実施しました。

(5) 実践・研究発表大会

日常の業務や自己啓発の取り組みの中で、課題改善や質の向上を目指して取り組んだ実践の経過やその結果をまとめ発表する機会をつくること、法人職員の気づきや工夫を共有し、業務と対応のあり方を検証し、し・向上・発展できる機会づくりとして実施しました。

平成27年度研究発表大会		
日時	平成28年3月12日(土)	9:00~12:00
会場	川崎市産業振興会館 1階ホール	
内容	発表1 コミュニケーションの大切さ	もとすみ地域相談支援センター
	発表2 ご利用者の健康管理・栄養管理による自立支援の取り組み	救護施設
	発表3 3M(あり・また・より)の排除、 ～報連相～支援の共有化を中心に～	聖風ホーム
	発表4 養護老人ホーム支援向上の取り組み(平成27年度までの取り組み)	恵楽園
参加人数	98名 *事業所いけがみ職員はインフルエンザの影響で全員欠席としています。	

(6) テキストづくり

職員が自発性と意欲を持って職務に取り組み、質の向上が図れるように、テキスト委員会を発足し、職員に行動指針となるテキスト(チューター編マイルレシピ)を作成しました。

委員会開催状況及び会議内容 全7回 委員4名

回数	年月日	内容
1	5月22日	今後の方向性及び内容の確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画</li> <li>・対人援助</li> <li>・組織のルール</li> <li>・コスト意識</li> <li>・委員会の役割の確認</li> <li>・スマイルレシピの使用法並びに応用編作成の検討</li> </ul>
2	6月24日	各委員が担当しているテキスト原案について進捗状況の確認 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個別支援計画について</li> <li>2. 援助境界について</li> <li>3. 組織のルールについて</li> <li>4. コスト意識について</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマイルレシピのテストについて</li> </ul>
3	7月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画について検討協議。</li> </ul>

4	9月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画について検討協議。</li> <li>・援助境界について検討協議。</li> <li>・組織のルールについて検討協議。</li> </ul>
5	11月25日	進捗状況の確認 1. 個別支援計画について 2. 援助境界について 3. 組織のルールについて 4. コスト意識について
6	1月13日	テキスト事案について最終確認。 1. 援助境界について <ul style="list-style-type: none"> <li>・表題を「利用者との距離感」とする。</li> <li>・イラストは全体との調和を考え、次回の委員会で検討する。</li> </ul> 2. コスト意識について <ul style="list-style-type: none"> <li>・表題を「事業収支の見方」とする。</li> </ul> 3. 個別支援計画について <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考文献を最後に載せる。</li> <li>・表題を「個別支援計画」とする。</li> </ul> 4. テキスト全般について <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォントをゴシック体12ポイントで統一する。</li> <li>・タイトルを「スマイルレシピ チューター編」とする。</li> </ul>
7	2月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト試作品の最終確認</li> </ul>

#### ④ リスクマネジメント委員会

リスクマネジメント委員会が中心となって、それぞれの事業所で起きた事故報告書やヒヤリハット報告書の書式を統一し、情報の共有化を図りました。平成27年度ではヒヤリハット報告を出しやすく、記載しやすくするために事故報告書とは別に簡易的な書式を作成いたしました。その結果、ヒヤリハット報告件数を上げることができ、職員一人ひとりの「気づき」を共有できるようにいたしました。

個人情報保護管理では、個人情報 that 適正に管理されているか「個人情報保護管理指針」を基に、「個人情報保護管理確認シート」を昨年度に引き続き実施、それぞれの事業所で保護の実態についてアンケート調査を行いました。その結果、ほとんどの質問項目に対し、職員の意識が昨年度に比べ、上がっていましたが、離席時に書類をそのままにした、パソコン画面を開いたまま離席したなど個人情報保護の必要性はわかっているものの、日常業務の多忙さから「つい」「うっかり」などの項目の他、メールで送信する場合にパスワードをつけていますか、施設外でご利用者を話題にしていませんかという質問については昨年度と変わらない結果が見られました。委員会としてこの4項目に対しリスクとして想定される理由を検討し、個人情報がどのような形で漏洩するかをイメージしてもらえよう事例を作成いたしました。

法人事業所事故報告総数

27年：総数 671件（ヒヤリ 458件 事故 218件）

26年：総数 533件（ヒヤリ 319件 事故 214件）  
25年：総数 608件（ヒヤリ 415件 事故 193件）  
24年：総数 424件（ヒヤリ 112件 事故 313件）

<会議開催日>

4月15日 5月20日 6月17日 8月19日 9月16日  
10月21日 11月18日 12月16日 1月19日 2月17日  
全10回委員会を開催

⑤ 広報委員会

『ふれあい新聞』を6月、10月、1月に発行いたしました。  
今年度は新聞をカラー印刷にし、ご利用者の作品や事業所の様子、新任職員紹介等が鮮明にわかりやすいものとなりました。また、広報委員一人ひとりが所属とは違う事業所に出向き、記者としてインタビューを行ない、紹介記事を書いたことで、一味違った誌面にかわったのではと思っております。このことでさまざまな事業所間での職員の横の繋がりも生まれました。新聞は関係各所に郵送し、御礼のはがきを頂いております。

ホームページでは、各事業所のページで行事の様子やお知らせの配信及び現況報告書、事業活動報告書、財務表の情報公開、権利擁護アンケート報告書や職員採用案内、ボランティア募集等様々な情報発信を行いました。ホームページをみて、職員応募に繋がる方もおり、さらに活用していきたいと考えています。

次年度は新たな事業所が2ヶ所開所しますので、わかりやすくタイムリーな広報活動に取り組んでいきます。

<会議開催日>

5月19日 7月14日 9月24日 11月16日 3月9日

⑥ 安全衛生委員会

安全衛生委員会では、労働安全として職場における職員の安全と健康を確保し、より快適な職場環境を目指した活動に取り組んできました。

平成27年度に取り組んだ重点項目は以下のとおりです。

(1) 産業医による職場巡視

執務環境、休憩室、付帯設備、長期労働等の状況等の職場環境の全般的な環境を巡視し、職員が安全かつ快適に職務に取り組めるよう環境整備の改善につなげました。

日 時	事 業 所
6月23日	川崎市恵楽園 社会復帰訓練所あやめ
9月15日	桜の風もみの木
11月24日	聖風ホーム なのはな 第2いけがみ
12月22日	事務局 救護施設 いけがみ 聖風苑デイ ことぶき

3月25日	かわさき基幹	もとすみ
-------	--------	------

(2) 職員が受診した健康診断結果の産業医による確認及び所見

日 時	事 業 所
12月10日	さくらの風もみの木 17名 井田地域 2名
1月19日	事務局 13名 救護施設 28名 いけがみ 16名 デイサービス 8名 第2いけがみ 13名 聖風ホーム 7名 ことぶき 17名 あやめ 6名 なのはな 3名 かわさき基幹 3名 もとすみ 3名 田島準備室 2名
3月14日	川崎市恵楽園 32名 恵楽園デイ・居宅 11名

(3) 衛生審査会の実施

日 時	事 業 所
4月20日	事務局職員のリハビリ勤務後の職務状況
7月28日	桜の風職員の長期休暇状態とかわさき基幹職員の復職
11月5日	ことぶき職員の復職
2月23日	いけがみ職員のリハビリ勤務の実施について
3月22日	いけがみ職員のリハビリ勤務の状況

(4) 今年度新たに取り組んだこと

- ・ 健康への啓発活動として運動やエクササイズのパンプを配布
- ・ 職場巡視簡易版の導入と実施年4回
- ・ ストレスチェック制度導入に向け準備

(5) 安全衛生委員会 実施日

4月20日 5月18日 6月23日 7月28日 8月25日 9月15日  
 10月20日 11月24日 12月22日 2月23日 3月22日

⑦ 医務衛生部会

医務衛生部会では、福祉施設で起こりやすい食中毒や感染症の発生について看護師、栄養士の専門職を交え、情報を共有しながらその予防、対策に向け情報発信や啓蒙活動に取り組んできました。

平成 27 年度に取り組んだ重点項目は以下のとおりです。

第 1 回	5 月 19 日
	事業所から現状の課題提起 今年度の具体的計画 ・ 6 月は食中毒、熱中症予防対策、9 月～ノロ、インフルエンザ対策として、既存マニュアルの見直しとポスター作製により注意喚起をする。
第 2 回	6 月 17 日
	・ 食中毒、熱中症対策としてのパンフレットを各事業所に配布、活用を促す。 ・ 既存マニュアルの検討。 ・ ノロ対策ウェブの視聴を励行。 ・ 夏場に向け、デング熱への注意喚起。
第 3 回	7 月 13 日
	・ 先月、配布したパンフレット、ポスターについて利用者へ配布したり、掲示等で活用されていることの確認。 ・ 救護施設での口腔衛生への取り組み。
第 4 回	10 月 1 日
	・ ノロウイルス予防と対策として、うがい、手洗いの励行とトイレや手すり等の消毒。 ・ 注意喚起として利用者、家族に配布できるパンフレットの作成。 ・ 再度、保健所のウェブ視聴を確認
第 5 回	11 月 12 日
	・ ノロ対策として作成したパンフレットを利用者、家族に配布し注意喚起を促す。 ・ 救護施設でのノロ対策の模擬練習から実地練習の必要性を確認する。 ・ 職員が罹患した場合の休暇の取り方の確認。
第 6 回	1 月 19 日
	・ ノロ対策の模擬練習をしてみたの反省事項の確認。 ・ 次年度は各職場の衛生チェックをしていく。
第 7 回	3 月 15 日
	・ 法人内衛生チェックのポイントの洗い出し。 ・ 口腔衛生への取り組みの検討。

⑧ 障害部会

(1) 開催目的

制度が変更されるなど運営にかかわる情報を交換し、連携を密にする場として、また、障害の方を対象とする事業所のサービスの質の向上、関係書式の新規作成や、見直しについても協議していきます。

(2) 主な内容

- A 苦情解決ガイドラインの策定（法人共通書式含む）の作成。
  - B 計画相談の必要性、計画相談を基に個別支援計画が作成されているかの確認。
  - C 事業所参画内の図書リストの作成。
- その他、制度、法律に関する情報交換を行い、適正な事業運営に関わる確認。

(3) 参画事業所

- 田島準備室●救護施設●あやめ(就労 B・継続)●なのはな(地活)●いけがみ●第2いけがみ(生活介護)●かわさき基幹相談支援●もとすみ地域相談支援(相談支援)●ことぶき(居宅・訪問介護)●桜の風(生活・宿泊訓練支援施設)●聖風ホーム(共同生活介護)●事務局

(4) 日程

毎月第2木曜日 時間 15:00~17:00

(5) 役割分担

- A 障害関係部会長：いけがみ) 幹事：いけがみ
- B 定例会 司会・書記(持ち回り)
- C 作業係(苦情ガイドライン、苦情書式、図書リスト、)

(6) 定例会 タイムテーブル

- 15:00 本日の内容(議題)確認
- 15:10 内容
- 16:30 情報交換
- 17:00 終了

(7) 平成27年度 部会活動

月	日時(予定)	内容	司会	書記
1回	4月9日 15:00~17:00	27年度障害部会で検討する内容の確認 記録、司会の決定	救護	第2いけがみ
2回	5月14日 15:00~17:00	苦情書式(記入方法)の検討	あやめ	なのはな
3回	6月11日 15:00~17:00	個別支援計画の作成について、計画相談実施されているものとの比較	桜の風	ホーム
4回	7月9日 15:00~17:00	苦情ガイドライン、書式2への記載について	基幹	あやめ
5回	11月12日 15:00~17:00	苦情解決、ガイドライン精査 個別支援提供:ことぶき	なのはな	ホーム
6回	12月10日 15:00~17:00	苦情の第三者委員、苦情受付担当者、苦情受付責任者の選定について。参考図書の運用について	ホーム	あやめ

7 回	1月16日 9:00~10:00	高齢者部会、障害者部会合同打ち合わせ 苦情ガイドラインについて		
8 回	1月14日 15:00~17:00	苦情ガイドライン最終版の確認 参考と図書のカテゴリー、分類分けについて	ことぶき	第2いけがみ
9 回	1月28日 9:30~10:15	高齢者部会、障害者部会合同打ち合わせ 苦情ガイドラインについて		
10 回	2月4日 15:00~17:00	苦情解決ガイドライン完成版の配布 振り返り、次年度に向け等	田島	ことぶき

## ⑨ 高齢部会

### (1) 開催目的

高齢者支援を行う事業所が、介護保険等の制度情報、稼働率向上に向けた対策協議等を行い、事業運営に活かすことを目的に部会を開催しました。なお、平成27年度からは同一テーマについては障害者支援班と合同部会を開催した。

### (2) 主な内容

- A 苦情の共有と対策協議、ガイドライン作成（合同部会）、様式の活用
- B 各事業所の運営課題の共有と検討
- C 介護保険制度、介護予防・日常生活総合支援事業等制度情報の共有
- D 集団指導講習会内容の共有
- E 事例検討（事業所として取るべき対応の検討）
- F 稼働率向上に向けた対策協議 ほか

### (3) 部会事業所

法人事業推進部長、聖風苑デイサービスセンター、ことぶき、恵楽園養護、恵楽園  
デイサービスセンター・居宅介護支援事業所

### (4) 日程

毎月1回（随時日程調整開催） 2時間程度

### (5) 開催実績

回	日時	場所	主な議題
1	5月19日（火） 14:30~16:30	恵楽園	部会・高齢者支援班の位置づけ確認、各事業所報告（稼働対策研修報告）、苦情と対応の報告と検討、年間計画の確認等
2	6月9日（火） 13:30~15:00	聖風苑	各事業所報告（稼働対策研修報告）、苦情と対応の報告と検討、等
3	7月14日（火） 14:30~16:30	恵楽園	各事業所報告（稼働対策研修報告）、苦情と対応の報告と検討、虐待事例の共有、居宅介護支援事業所の法令順守 等
4	8月11日（火） 15:00~16:30	聖風苑	各事業所報告（稼働対策研修報告）、苦情と対応の報告と検討、恵楽園での事故報告 等
5	9月14日（月） 14:30~16:30	恵楽園	各事業所報告（稼働対策研修報告）、苦情と対応の報告と検討、恵楽園の事故・指定管理申請状況報告 等

合同 ①	9月29日(火) 14:30~16:30	聖風苑	苦情解決ガイドライン案の検討
合同 ②	11月20日(金) 9:00~12:00	聖風ホーム5号館	苦情解決ガイドライン案の検討
6	11月24日(火) 15:00~17:00	聖風苑	各事業所報告(稼働対策研修報告)、苦情ガイドライン案、苦情と対応の報告と検討、等
7	12月18日(金) 14:00~16:00	恵楽園	各事業所報告(稼働対策研修報告)、苦情と対応の報告と検討、年末年始の対応確認、区役所の再編等情報共有 等
合同 ③	1月7日(木) 9:30~11:00	聖風苑	苦情解決ガイドライン案の検討
8	1月26日(火) 9:30~11:30	聖風苑	各事業所報告(稼働対策研修報告)、苦情ガイドライン案の検討、事業計画 等
合同 ④	1月28日(木) 9:00~10:00	聖風苑	苦情解決ガイドライン案の最終校正と確認、今後の進め方の確認 等
9	2月23日(火) 9:30~11:30	恵楽園	各事業所報告(稼働対策研修報告)、苦情報告、事例検討、事業計画 等
10	3月22日(火) 9:30~11:30	聖風苑	各事業所報告(事故稼働対策研修報告)、苦情報告、ガイドライン活用検討 等

#### 4 各事業所の取り組み

##### ① ノーマ・ヴィラージュ聖風苑

###### (1) 施設概要

ノーマ・ヴィラージュ聖風苑は平成4年4月に開設し、次の事業を運営しています。

【経営主体】	社会福祉法人 川崎聖風福祉会
【施設名】	ノーマ・ヴィラージュ聖風苑
【所在地】	神奈川県川崎市川崎区池上新町 3-1-8
【開設年月日】	平成4年4月1日
【施設規模】	土地 1615.80 m <sup>2</sup> 建物 3460.81 m <sup>2</sup> (鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階 地上5階)
【施設種別】	救 護 施 設 定員86名 (生活保護法に基づく保護施設)  い け が み 定員20名 (障害者総合支援法に基づく生活介護事業所)  デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー 定員35名(1日あたり) (介護保険法の規定に基づく通所介護施設)

(2) 職員構成

平成28年3月31日現在

ノーマ・ヴィラージュ聖風苑	
救護施設	いけがみ
所長 1	所長 1
事務職 4	事務員 1
栄養士 1	支援職 12
支援職 16	看護師 2
看護師 2	非常勤(支援職) 4
非常勤(支援職) 0	非常勤(看護師) 1
非常勤(清掃員) 4	非常勤(清掃員) 1
非常勤(警備員) 5	非常勤(運転手) 0
嘱託医 2	嘱託医 1
小計 35 (11)	小計 23 (7)
デイサービス	
センター長 1	
支援職 2	
看護職 0	
非常勤(支援職) 6	
非常勤(看護師) 2	
非常勤(清掃員) 1	
非常勤(運転手) 2	
小計 14 (11)	

合計 72名 (29)

### (3) 会議報告

#### ア) 防災会議報告

消防計画書に基づき、防災管理の適切な運営を図るために設置して、年間計画のもと、避難訓練を実施しました。

平成27年度では防災意識を高めるため、起震車を利用し大地震の揺れを経験することで日頃から準備への大切さを実感いたしました。避難訓練時には消防署の職員と連携し、通報訓練を実施しました。

A) 避難訓練を含めた総合訓練 聖風苑全体を対象

10月21日実施

B) 夜間想定避難訓練を含めた総合訓練 救護施設を対象

6月17日実施

2月 3日実施

<会議開催日>

6月9日 7月29日 1月29日

#### イ) 聖風苑まつり委員会

今年度の聖風苑まつりは、1年間の様々な感謝の気持ちをより明確に表したいとの思いのもと「伝えよう！ つなげよう！ 感謝の気持ち 幸せの笑顔」をテーマに掲げ開催しました。聖風苑の入口を飾るメインオブジェには、参加型のイベントとして、「感謝の木」を企画しました。これは、地域の方はもとより、ご利用者・職員も参加して、日頃の感謝の思いを記した付せんを「感謝の木」に、一枚一枚生い茂る葉っぱのように貼っていただくというものでした。

今年度は、親子連れの皆様にも楽しんでいただける催しの他、交流のある他法人に出店していただくなど、例年とは異なる企画を多数用意しました。天候にも恵まれたこともあり、当日は、多数の地域の方々に来苑頂き、聖風苑を知っていただく絶好の機会となりました。また、ご利用者や職員にとっても、またとない地域交流の場になったと思います。

その証として、まつりが終わる頃、メインオブジェの「感謝の木」には、来園者の皆様からいただいたたくさんの感謝の気持ちで、いっぱい葉が生い茂りました。

<会議開催日>

5月22日 6月23日 7月30日 8月12日 10月7日 10月28日  
12月21日 2月24日 3月17日

#### ウ) ボランティア会議

聖風苑に係るボランティア活動の募集、受け入れ対応、行事企画運営等、ボランティア活動の連絡調整及び対応を行う委員会です。

活動内容はつぎのとおりです。

##### (A) 募集活動

- ・(公財)かわさき市民活動支援センター

ボランティア募集雑誌「ボラ・ナビ 2015」掲載

- ・川崎市社会福祉協議会主催「チャレボラ」受け入れ施設に登録

（「チャレボラ」とは、川崎市内在住・在学の小学生から大学生を対象に夏休み期間にボランティアを体験してもらう企画で、「チャレンジボランティア体験」の略。）

(B) 行事企画

- ・大師高校吹奏楽部の演奏

8月24日（月）11時から11時40分

- ・観音幼稚園園児の皆さんとの交流会

10月23日（金）10時30分から11時

救護施設、いけがみ、ディサービスの三部門合同で演奏会、交流会を開催しました。笑顔がこぼれ、また涙する姿があり、“心が動く”ひとときでした。利用者の方々は大変楽しまれておりました。

また、ポスターや会場装飾をし、ボランティアの皆さんにも好評でした。

(C) その他活動

- ・各部署にて、傾聴や行事ボランティア、書道、理容、美容、将棋、他、ボランティアの方々の参加をいただいています。

<会議開催日>

5月19日 7月21日 9月18日 3月24日

エ) 給食委員会

円滑な給食業務の遂行及び充実した食事の提供を図ることを目的とし、救護施設、いけがみ、ディサービスの3部署と委託給食業者で行う委員会です。ご利用者に提供する食事に関する事、各部署、給食業者との意見交換、行事食に関する事、給食提供に対する共通ルール、ノロウイルス対策の確認など話し合いました。

<会議開催日>

5月14日 6月11日 7月8日 9月17日 10月13日

11月19日 12月10日 1月14日 2月10日 3月10日

#### (4) 給食

##### ア) 基本的な考え方

食事は生命を維持し健康を保持・増進するだけでなく、ご利用者にとり生活の中で大きな楽しみです。

安全で皆さまに満足していただける給食サービスの提供を目標に努めました。

##### イ) 個別対応

一般食を基本としていますが、アレルギーなどの疾病や体調、食べられない・食べにくい方の為に、自助食器の購入やミキサー食対応などの個別対応をしました。

##### ウ) 食品衛生管理

行政指導の大量調理施設衛生管理マニュアルに従い、実施しました。

ア 保存食…食材料及び出来上がり食品を各 50g 以上 2 週間以上冷凍保存

イ 厨房内害虫駆除…月 1 回実施。

ウ 調理従事者の健康管理…検便月 1 回(6~9 月は月 2 回)

ノロウイルス検査 (11 月・1 月)

健康診断年 1 回実施

エ 食材の検収…納品時間の記録、納品時温度測定および記録、適切な保管

オ 調理時管理…中心温度の測定および記録、調理途中の適切な温度管理

##### エ) 非常食

災害時の対応として、非常食を 5 階倉庫と地下倉庫に備蓄しております。

内容は、様々な災害状況を想定して一人用缶詰や調理不要のものなどです。

#### (5) 救護施設

##### ① 利用者の状況報告

救護施設は開設し 24 年を迎えました。入所者の平均在所期間は男性 7 年 7 か月、女性 9 年 11 か月、男女平均で 8 年 5 か月になります。平均年齢は男性 62 歳 8 か月、女性 64 歳 0 か月で、男女平均 63 歳 2 か月です。65 歳以上の方は 86 名中 36 名と 41%を占めています。

平成 27 年度、精神科・内科・外科等入院された方は延べ 28 名でした。精神的不調を訴え精神科に入院された方は 12 名、内科的疾患では誤嚥、敗血症等での入院が 8 人と多く、結腸癌、肝臓癌の悪性腫瘍などで入院した方も各 1 名いて相対的に体力が低下してきていることがうかがえます。また、体力の低下は退所理由からも予見できます。退所された方は計 11 名で、うち 2 名が死亡、長期入院が 5 名、移管が 3 名であり、死亡、長期入院が 63%を占めています。

##### ② 事業計画をふまえた報告

個別支援計画の作成、見直しにつきましては、毎日夕方の引き継ぎ時にケース

を提案し協議しています。日中活動の場として、昨年度から就労継続支援B型へご利用者が継続利用し固定化が見られます。また、別の就労支援B型への参加、一般企業にも就労する利用者であるなど社会参加が増えてきています。

地域との連携につきましては、盆踊りや運動会などに参加し交流を図ってまいりました。また、地域貢献として町内会緑道清掃を週1回、行っております。

その他リスク管理につきましては、71件の事故報告がありました。利用者自らの転倒・転落事故が6割を占めており、歩行機能や身体のバランス感覚の低下がうかがえます。

苦情につきましては、26件の訴えがありました。内容といたしましては、他利用者の居室に無断入室や物、金銭のやり取りの苦情については、月例会で検討課題として話し合いを持ち、「やってはいけない行為」として位置づけ結果を掲示いたしました。また、その他の苦情につきましてはひとつひとつ丁寧に対応し、施設生活を送っていくうえでの不便さの解消に努めました。

## (6) いけがみ

### ①利用者の状況報告

いけがみは平成4年に開設し、平成28年4月からは、かわさき障害者福祉施設たじまに移行することが決まり、23年の年月を経て閉鎖となりました。ご利用者の皆様は、少し寂しい気持ちを感じつつも、新たな生活がスタートすることへの期待が膨らんでいます。

平成28年3月31日現在のご利用者は28名となり、新規2名と転居による廃止が1件ありました。年間を通し、20名定員で1日の平均利用率は18.2名。利用率としては目標に届かなかったものの、障害支援区分6の最重度であるご利用者が93%占めていたため収入においては達成されました。

### ②事業計画をふまえた報告

心身に重度の障害をお持ちの方が多く居られるいけがみにおいては、健康面への細やかなケア、作業療法士による指導のもと関節可動域運動（ROM運動）を継続することで拘縮の予防や身体機能の維持、生活リズムをつける事を大きな目標として支援を行ってきました。

能力を発揮することに注力して個性を伸ばすこと、いいところを伸ばすことを大切にしてきました。また、熱中できる好きなものを見つけることは、ポジティブに生きる上での大きな価値となるため、各ご利用者担当を中心として模索しながら個別支援を提供しました。

昨年度は祭日営業を行うとりかかりとして行事として様々な季節のイベントを企画しましたが、今年度は日々の活動に重きをおき新たにサークル活動を実施しました。ボクシングサークル、おしゃれサークル等、「女性として男性として」の楽しみに特化した内容や、ガーデニングサークル、写真サークルで生き物を育てる喜びを感じ、日々の記録をつけることにより思い出をつくる取り組みをしました。

## (7) 聖風苑デイサービス

27年度は、介護支援専門員との連携のもと利用者や家族のニーズを把握し柔軟に対応することができました。

1人1人の持つ力を発揮し残存能力を維持していけるように、臨港病院から派遣されているPTの先生の訓練プログラムを忠実に実行し自立支援を目指しています。

実習生を受け入れていく中で、交流が持てボランティアとして暮れに演奏会を2日間開く事が出来、ご利用者もスポット利用され2日間で60名程の参加者となりました。

ご利用者状況として新規のご利用者20名、取り消し（死亡。施設入所）17名。前年度プラス3名となりました。

27年度の福祉系国家資格取得状況としては、常勤職員1名が介護福祉士の資格を取得しました。

## ② 第2いけがみ

単独事業所として2年目を迎え、平成27年度は地域との関わり及び新施設移行に向けての試行や準備等に力を入れました。

活動では、地域の方との関わりを大切に生産活動等を行いました。また、多様な障害特性をもつご利用者のペースや意思を尊重する支援に心掛けました。

ご利用者の受け入れについては、平成27年度は6名（新卒4名、一般2名）でした。実習については、新卒の方の進路先のひとつとして、積極的に受け入れています。（今年度は6名）また、専門学校生の施設実習も受け入れています。

### (1) 地域の方との関わりを重視した活動

第2いけがみでは、平成24年のいけがみ分場の設立以来、『地域の方と関わりながら働く』というテーマに基づき、活動を開拓してきました。平成27年度は、開拓してきた活動を今後の新施設移行に向けて継続するか等、検討をする1年でした。地域の方と関わる活動として、近隣のお店や住民の方からリサイクルできる物（段ボールやペットボトル、アルミ缶）を回収しました。これは廃棄処分に困っていた方からの回収のため、喜ばれました。また、近隣の道路や公園の清掃も定期的に行い、地域住民の方との挨拶等で関わりをもち、同時に社会貢献にも繋がりました。

### (2) 新施設移行に向けての変革準備

平成28年開設予定の新施設移行に向けて、活動のグループ体制の試行や準備をしました。職員に関しては、平成26年度の他施設実習（ゆずりは園、あかしあ園、横浜やまびこの里）等を基に、活動カリキュラム等を作成し、実践しました。また、ご利用者、ご家族等にも平成28年度の新施設についての説明等も行い、全利用者が移行する確認が取れました。

### ③ 聖風ホーム

#### 関係機関との連携

- (1) グループホームとしての役割を明確にし、相談支援センターなどの他機関と連携し支援する。関連機関との連携によりチームとして一人の支援にあたる為に、常に情報共有を行い、適宜ケア会議実施。
- (2) 入居者に課題が生じた時、福祉分野だけではなく外部の専門家に相談し他機関と連携し解決に向け働きかける。  
入居者の中には、借金問題、宗教でのトラブル、国籍の問題等抱える中、入国管理局や弁護士など専門機関と共働で解決に向け、センター、福祉事務所は元より、専門家の助言を受け支援にあたるケースもみられ、生活課題は多岐に渡る。
- (3) 5号館・6号館の新規開設後の支援として
  - ア) 新規開設に伴う入居者の募集として見学、体験入居を実施し入居まで関連機関と役割分担し共同で入居に向け実施。
  - イ) ワンルームタイプのグループホームとなります為、ワンルームタイプにおける生活状況等の把握から、自立に向けた支援を行う事ができるよう職員、世話人と共に共働で行う。
  - ウ) 既存の入居者に対しても、今まで通り、それ以上の支援を受ける事ができる様職員間の情報共有を行った。
- (4) 会議体系の整備
  - ア) 事業所内会議の定例開催（隔週）  
定例会：職務分担、設備、体制等にかかる情報共有及び決定の場  
ケース会議：利用者支援に係る会議
  - イ) 法人会議の定例開催  
合同会議：法人と事業所の情報共有及び決定の場
  - ウ) 朝の申し送り  
毎朝の申し送りの場面として、毎朝実施する
  - エ) 世話人座談会  
世話人全体と、事業所、法人の情報共有、意思疎通全体で図る事ができる場  
面を年2回設定することを継続的に実施しております。
  - オ) 世話人月報告会  
毎月実施。毎月の業務報告、食材費の清算、出勤状況の確認等の場面をそれぞれの世話人さん個別の報告の場として設定。
- (5) 設備面  
まちづくり局から建築基準法に抵触していると指導を受けていた為、3号館におきましては28年1月をもちまして、閉鎖する運びとなりました。入居者に

については、既存のホームに移管することとなった。

#### (6) 入居者受入手順マニュアルの整備

相談から見学、正式入居までの手順について、全職員が共通認識を持って取り組めるよう手順マニュアルの作成に着手した。平成27年度にはマニュアルを完成させ、併せて体験入居手順書マニュアル、書式等を整備し、スムーズな見学、体験入居、本入居に向けた動きをとることができた。

#### ④ 地域サービスセンター ことぶき

居宅介護支援事業では、地域に密着し、無くてはならない事業所として支持して頂けるように、きめ細やかなサービス提供を心がけ、事業の安定をはかるために近隣病院の地域連携室や地域包括支援センターと連携を図りました。また、介護予防支援業務の委託数は増加していますが、他施設入所や死亡による契約終了が増えているため利用者数は低下しています。

訪問介護支援事業では、昨年度に比べ月々のご利用者人数は横ばいですが、全体でのサービス提供時間は増加しています。

障害福祉サービスでは、居宅・重度訪問サービスの利用者数は昨年度末で5名でしたが、平成27年度末で13名に増加するなど順調に実績が伸びています。

登録ヘルパーの状況として、今年度は新規登録は5名、契約解除は3名となりました。ヘルパーの高年齢化に伴い活動内容と活用時間の制限もあり、事業が拡大している中で随時募集はしていますが、ヘルパー不足は変わらず続き、サービス活動に事務所職員で対応する状況が続いています。

訪問介護支援事業と障害福祉サービスは共にニーズが高まっており、それに伴いサービス提供責任者の増員が必要で、現在募集している状況です。

#### ⑤ 川崎市地域活動支援センター なのはな

福祉機関からの紹介により新規ご利用者5名の契約とご本人事情や死亡などの理由による5名の契約解除があり、1日平均利用者数は6.6名、年度末登録者は30名で平均年齢は42.8歳でした。障害別内訳は精神障害者47%知的障害者47%身体障害者17%となりました。活動は、ご利用者の意欲及び個性を尊重して個々のニーズを重視した個別支援計画の作成と利用者会を開催することにより、アルバイト就職1名、作業所への移行1名。作業は、引き続き周辺企業からのチラシ差し込みとポスティング及び自主製作製品への取り組みの一環として手工芸製作を継続して行いました。また、各福祉支援機関との連絡を密にとり、ご利用者の支援状況を確認しながら日常生活能力の維持向上が図られてきました。

## ⑥ 社会復帰訓練所

障害者総合支援法に基づく「就労支援事業」の2つのコースから、ご利用者の希望に応じ選択していただいています。当事業所では、企業での就労を前提として、生活の土台となる健康状態、生活（家族）状態を把握し、親亡き後の生活の不安、人生での生き（生活し）づらさに焦点を当てた相談支援を行っています。そのうえで、ご本人の生きていく力（勇気）と自信が持てる援助を心がけています。

### 事業報告の概要

就労継続支援B型事業（定員20名） ＊期間の制限はありません。

登録者は30名で、平均して日々16名の方がご利用されました。施設内作業では27年度に取引のあった業者は25社でした。また新たに継続して受注が見込まれる業者が2社加わり、26年度より施設内作業収入4万円、施設外実習収入34万円の増額となりました。その為27年度の工賃収入は総額310万円となり、時給換算で月319円の工賃支給となった為、県で定められている基準を上回り目標工賃を達成する事が出来ました。

就労面では4名の方が企業就労されていますが、そのうち2名は就労移行支援の利用期限が終了した為に継続B型からの就労となっています。

27年度の新たな取り組みとしては、作業終了後に睡眠・気分・体調、作業内容と自由記述を記載していただく「気分調べチェックシート」を導入しています。気分調べチェックシートを導入する事で、普段なかなか自分から不調等を訴える事の出来ないご利用者の日々の変化について職員が把握する事が出来るようになりました。

### 就労移行支援事業（定員10名） ＊利用期間2年

登録者は5名で1日平均2,7名の方がご利用されました。平成27年度は2名が就労に至り、1名が現在も就労を継続されています。

27年度の特徴としては、就労後の職場定着の為に必要なスキル・配慮として自分の体調と向き合う事と、集中に適した時間で業務をこなす事をあげ、訓練時間を午前中1コマ1時間、午後は1コマ45分に変更を行い、訓練時間前にK-STEPに記載された自分の体調の報告をする時間を設けました。

新たな取り組みとしては、事務職を希望されるご利用者が多い事から、電話対応のスキルの獲得を目的として、外部からの電話に訓練生として対応していただき、職員に取り次ぐ訓練を導入しています。その他には軽作業以外のスキルアップを目的に自主学習の時間を導入し、行事のチラシや月間のスケジュール表の作成、ブログの更新などを行っています。

また昨年度に引き続きご利用者自身が日々の精神状態や体調面の振り返りを行い、職員に報告をする事ができるようにK-STEPを実施しています。K-STEPを継続して行う事で、ご利用者自身で自分の症状や体調の変化の兆しについて新たな気づきを得る事ができ、職員もよりご利用者の変化について把握する事が出来ました。

認知行動療法、社会的技能訓練（SST）、運動プログラムは導入当初から1年半が経過し、就労や就労後の定着の段階で出てくる課題について、より具体的なご利用者のニーズに沿った内容でのプログラムを実施しました。

施設内での作業や企業での施設外実習も、より実践的に望む事出来る場として、就労体験や就職活動が出来るよう支援しています。

#### ⑦ かわさき基幹相談支援センター

平成27年度は相談支援専門員2名、医療系相談員1名、相談員1名の4名体制で実施しました。相談者が72名で、そのうち利用契約者が33名でした。

活動として、川崎区サービス調整会議、川崎区相談支援調整会議への出席や、川崎市地域自立支援協議会事務局会議の構成員として運営に参加しました。また、川崎区地域自立支援協議会は事務局として、区役所や地域相談支援センターと協働しながら、企画運営を行いました。

基幹相談支援センター運営会議では、基幹相談支援センターの役割や業務内容について検討し、相談支援記録システムのマニュアルの改訂等を行いました。

基幹相談支援センターの大きな役割として、虐待通報によるコア会議への出席があり、区役所、田島支所からの招集がありました。継続した個別支援会議を行ったり、家族全体の支援が必要と判断し、関係機関を招集して会議を行う等、必要に応じて対応しています。

また、平成27年度からの取り組みとして、月1回、区内の委託相談支援事業所4カ所が集まり、今後の相談支援について検討する場を設けました。検討内容は区役所にも報告し、情報の共有化を図ることで、課題を整理して協議できるようになってきました。

法人内の相談支援事業として、かわさき基幹相談支援センター会議を月1回、もとすみ地域相談支援センターとの合同会議を月1回開催し、ご利用者の情報共有や、各々の区で取り組んでいる内容の情報交換等を行いました。

新規相談の傾向として、ご本人やご家族からの直接の相談に加え、関係機関（医療機関、地域包括支援センター等）からの相談が増加しており、センターへの来所や自宅への訪問による相談、関係機関との同行訪問、ケア会議への出席等の支援を行っています。

#### ⑧ もとすみ地域相談支援センター

平成27年度は相談支援専門員1・相談員2体制で実施しました。相談者が80名でそのうち利用契約は44名でした。

活動としては中原区地域自立支援協議会、中原区サービス調整会議・中原区相談支援調整会議に出席し、相談支援活動を行いました。区の協議会では基幹相談支援センターと共に事務局として協議会の運営を行いました。相談支援調整会議では実際の事例を出し合いながら、日常の支援の見直しを行なってきました。地域移行、

地域定着に関しては少数ではありますが相談を受けました。

また、養護学校卒業生の相談も増加傾向にあり、年齢や特性などの幅がさらに広がってきました。相談支援センターの相談員としての専門性が問われ、また地域の様々な関係機関との連携が必要不可欠で、そこにも時間をかけながら、地域型相談支援センターとしての役割を担いました。

⑨ 桜の風 もみの木

平成 27 年度は、従来の事業所機能である「自立（生活）訓練」を通所だけでなく訪問型でも利用できるよう体制などを整えました。

これにより、宿泊型自立訓練を卒業したご利用者に対してアウトリーチ的な支援を実施できるようになりました。具体的には桜の風に入所時と同等の日常生活への取り組みの確認や実際の地域生活での不安感や新たな課題への取り組みが出来るようになりました。

また、各事業の平成 27 年度利用実績は、以下の通りです。

ア 宿泊型自立訓練

延べ利用者数 5122 人

平均利用者数 14 人/日 稼働率：70%

年度末 登録利用者 14 名

入所者…9 名

退所者…11 名

退所先内訳

- ・アパート単身生活への地域移行…5 名
- ・グループホームへの地域移行…5 名
- ・救護施設への入所…1 名

イ 自立（生活）訓練

延べ利用者数 2000 人

平均利用者数 8.2 人/日 稼働率：34%

ウ 短期入所

延べ利用者数 1736 人

平均利用者数 4.7 人/日 稼働率：95%

\*（うち緊急短期入所利用延べ人数 82 名）

エ 体験利用

延べ利用者数 252 人

平均利用者数 1.0 人/日 稼働率：52%

## ⑩ 川崎市恵楽園

### (1) 養護老人ホーム

27年度は、利用者数改善への取組みを通して、養護老人ホームの社会的ニーズと期待の高さを実感した年になりました。社会的ニーズに応えるために組織体制を強化し、職員の支援スキルの向上に取り組んできました。

内部的には、社会のニーズに応えられる職員の育成研修の充実を図りました。具体的には、認知症、精神疾患、知的障害、被虐待高齢者への適切な支援方法の学習、身体介護技術の実技研修、更には地域包括ケアシステムにおける高齢者の住まい、住まい方と養護老人ホームのあり方を学ぶ研修会を行いました。研修会開催の際は、できるだけ近隣施設（特にすえなが養護）や市・区役所等関係機関も参加できるように案内を送りました。

ご利用者の健康管理にも力を入れてきました。精神疾患の方については日頃からの観察と精神科の嘱託医との連携を強化し長期入院に至らないように努力しました。ご利用者の体調について

医務室と連携し、必要があれば内科嘱託医、かかりつけの病院に相談し受診してもらいました。

外部とは、地域包括支援センターや福祉事務所（保護課や高齢障害課）へ必要な人に必要なサービスが届くように養護老人ホームの存在と役割をお知らせし、虐待や単身生活に不安のある高齢者の要望に応じていく体制を整備しています。27年度は更に精神病院等に長期入院している高齢者の退院先として養護老人ホームの機能について説明をして周り一部の病院から看護師等の見学がありました。

指定管理更新へ向けて入口支援や出口支援などを検討してきました。入口支援は形が整いつつあります。28年度はさらに出口支援を進めてまいります。また、施設支援強化も27年度は検討してきましたが、28年度は、個別支援計画の改善と併せ進めてまいります。

平成27年度も恵楽園運営検討プロジェクトを続けてきました。28年度以降も川崎市の所管課及び関係機関と連携を取りながら当法人と恵楽園職員が一体となり必要とされる施設としてご利用者の支援を行っていきます。

### (2) 川崎市恵楽園デイサービスセンター

今年度も多くの高齢者にご利用いただきました。

デイサービスでは、今年度で4年目になりますが音楽療法士による音楽療法を実施しました。音楽療法では太鼓、大太鼓、電子ピアノ、タンバリン、カスタネット等や体を駆使して計7回（一回45分程度）の療法をご利用者に受けていただきました。ご利用者の中には、当初興味が無かった方が回を追うごとに体を動かして楽しまれた方や、ご家庭において音楽療法の話題で家族間の会話が増えてよかったですとお声を頂きました。

また、約半年の間に洗足学園音楽大学から、教員免許取得介護等実習生が1名ないし2名が5日間の実習に来られ、自身の専攻している楽器等で実習の合間に毎日10分程度の演奏も音楽療法の相乗効果をもたらしたと考えます。

創作活動においては、毎月デイフロアの壁をご利用者が折り紙や花紙等を使って飾りつけを行っております。手先のリハビリ運動として行っておりますが、完成品を見て創作活動に多くの方が参加されるようになりました。

認知症予防のために、間違いさがしや簡単な計算等の脳トレーニングを行いました。また、ADLの維持向上をめざして機能訓練に力を入れ、セラバンドやダンベル体操、サイクルマシンの利用、階段昇降、歩行訓練等を行いました。今年度後半からは、歩行運動マシンの導入やサーキットトレーニングメニューを加えて、より個別機能に即した訓練を行いました。

その他に、川崎市主催の「川崎市自立支援介護講習会」に参加して、1日の水分摂取量を1500cc以上摂ることによる認知症改善・歩行機能改善・夜尿症の改善等の取り組みプロジェクトに参加し、短い期間ですがご利用者に良い成果が出てきているので今後も継続していきます。

### (3) 居宅介護支援事業所)

川崎市健康福寿プロジェクトモデル事業に参加し、恵楽園デイサービスと福祉用具事業所と協力し、ご利用者の要介護度改善に良い結果がでました。

高津区の地域医療と福祉を考える会に参加し2ヵ月に1回研修会に参加しています。主任介護支援専門員が神奈川県社協及び横浜市社協に協力しそれぞれの27年度神奈川県介護支援専門員実務研修のファシリテーターを引き受けました。

## ⑪ 田島施設準備室

### (1) 体制の構築

かわさき障害者福祉施設たじま開所に向けた体制作りをおこないました。また、組織体制、人員体制を具体的に検討し、定員基準合わせた職員の移動・中途採用等配置計画を行いました。

#### (ア) 介護部門

施設長1名、係長(サービス管理責任者)2名、事務職1名、嘱託医1名、  
看護師3名

支援員30名、運転手1名

#### (イ) 短期入所部門 係長(管理者兼務)、支援員1名

#### (ウ) 日中一時預かり部門 支援員2名

#### (エ) 相談支援・地域支援部門 課長1名、相談員2名

#### (オ) 協力医療病院 川崎医療生活協同組合川崎協同病院 嘱託医 内科医

#### (カ) 給食提供 全面業者委託 (株)レオック 厨房での調理による提供

### (2) 建設・事業準備の推進

平成27年5月に建設や支援プログラムに係る検討の定例会議を立ち上げ、毎月1回ずつ、必要に応じて適宜行いました。平成27年5月に建築工事着工し、11月下旬上棟、平成28年3月末に竣工をしました。

(ア) 建設現場定例会議：設計監理業者、建設業者、電気、水道等設備業者、川崎市施設整備課、田島準備室、いけがみ、その他必要に応じて

(イ) 田島プロジェクト会議：常務、事業部長、参与、準備室、いけがみ、第2 いけがみ

(ウ) 拠点型施設合同打合せ会議：宮前拠点予定施設と川崎市障害計画課と拠点施設の事業について確認をしてきました。(10月より月1回)

：常務、事業部長、参与、準備室、いけがみ、第2 いけがみ

(エ) 資金調達、支払い

平成25年度より設計を開始し、平成28年3月31日竣工しました。業者支払いについては、5月末日の整備補助金による支払いをもって完了になります。

金融機関より受けた融資資金（無担保）については、毎年度償還補助金の申請し、10年間で返済していきます。

設計費	業者支払い	整備費補助	金融融資	自己資金	備考
平成25年 12月	¥6,237,000	¥6,237,000			設計費1回目補助（基本設計）
平成26年 5月	¥14,553,000	¥9,356,000	¥5,197,000		設計費2回目補助（実施設計）
工事費	業者支払い	整備費補助	金融融資		備考
平成27 年5月	¥83,646,000		¥83,646,000		監理 5,346,000 工事 78,300,000 (杭工)
平成28年 1月	¥195,750,000	¥80,973,000	¥114,777,000		工事 195,750,000 (上棟)
5月	¥33,482,376	¥33,325,715		¥156,661	備品 (初度調弁)
末日	¥514,296,000	¥514,296,000			監理 5,346,000 工事 508,950,000 (竣工)
建設総額	¥847,964,376	¥644,187,715	¥203,620,000	¥156,661	

### (3) 事業内容、指定

事業の内容を具体的に検討・協議するとともに、各種規定（運営規定、利用についての規定など）を検討し、平成28年3月に指定申請を行いました。

### (4) ご利用者、地域への説明

平成27年7月にご利用者説明会、11月に田島支援学校説明会、平成28年2月ご利用者説明会、3月内覧・開所式、近隣見学会を行いました。

広報、説明に伴い、パンフレット作成を行いました。

### (5) 職員研修

母体となるいけがみ、第2いけがみ事業所職員について、各種実務技能研修、施設実習を行いました。

(ア) 実務講習：介護職員による医療的ケア（喀痰吸引等）資格研修(参加6名)  
医療的ケア教員（指導看護師）資格研修（2名参加）

知的障害者ソーシャルスキルトレーニング(sst)ファーストレベル講習（2名参加）

(イ) 現場研修（実習先）：社会福祉法人セイワ つばき寮 短期入所（2名参加）  
社会福祉法人大樹 つるみ活動ホーム幹 短期入所（2名参加）

社会福祉法人長尾福祉会 パセオやがみ 生活介護（11名参加）

社会福祉法人みなと舎 ゆう（重心生活介護）

ライフゆう（重心短期入所）（5名）

(ウ) 講義研修 講師：社会福祉法人川崎市社会福祉事業団南部療育センター  
「発達障害とは」 (20名参加)

講師：社会福祉法人横浜やまびこの里 主催：川崎市更生相談所  
「自閉症も方の理解と施設の実践制づくり」 (1名参加)

(エ) その他

各種業者選考

給食業務・設備管理（保守点検）・リネン納品回収・事業ゴミ処理の業者、設備管理業者、その他必要な業者を検討し決定しました。

(A) 備品・設備のコーディネート業者（プロポーザル方式選考）

(B) 各種備品業者（入札方式選考）

(C) 給食業務委託業者（プロポーザル方式選考）

(D) その他業者（経理規定にそって複数見積もりによる選考）

(イ) 施設名称選考

田島施設の名称について、たじまプロジェクトにて検討・提案をしました。障害福祉の総合拠点、地域支援拠点を目指すことから、「かわさき障害者福祉施設たじま」に決定しました。

## 12 井田地域生活支援センター準備室

川崎市生活訓練支援センターカシオペアからの引継ぎを緊密に行うため、平成 27 年 10 月準備室をもとすみ地域相談支援センター内からカシオペア内に移設しました。

地域活動支援事業としては、カシオペアの各種プログラム、行事に参加しつつ、はるかぜでの継続の是非、方法を協議していきました。また、カシオペア地活利用者ではるかぜの地活を継続して利用希望される方の面談に取り組み、利用者の状態把握に努めました。相談事業に関しては、利用者との顔合わせ、同行訪問の機会を設け、引継ぎを行いました。

地域移行・地域定着支援事業としては、健康福祉局精神保健課職員とともに市内精神科病院を訪問し、はるかぜが担う事業部分について説明を行いました。同事業のケース引継ぎでは、利用者との関係を作っていくことに重点を置いて行っていました。

施設設備面では、電話設備工事の内容確認が難航し鍵の引き渡し後も工事の立会いなど調整が必要となり、対応しました。

川崎市中心部リハビリテーションセンター内覧会を 3 月 28 日に、カシオペア利用者向けはるかぜ見学会を 3 月 29 日にそれぞれ実施しました。

準備室研修として次の機関での見学や実習を行いました。

主な見学先：百合丘地域生活支援センターゆりあす、

川崎市及び横浜市内精神障害者対象地域生活支援センター

主な実習先：かわさき基幹相談支援センター、もとすみ地域相談支援センター